



お どう ひろし
尾藤 博

岡山市下水道局
計画調整課 課長

◆これまでの経歴は

昭和56年、岡山市に採用され、当時の建設局土木部などに所属し、主に市道の新設改良事業に携わりました。平成4年に突然下水道局計画課へ異動となり、何も分からぬまま新規処理区の計画立案や浸水対策の調査を担当しました。合流区域の浸水対策では、降雨や水位データの解析ならびに水理計算と格闘する日々を送り、その結果、部分改良やバイパス設置では効果はなく、地道に能力アップさせていくしかないことに気付かされました。その後、一般ごみの焼却場建設事務所で大規模建設工事を経験し、平成13年に再度下水道局へ戻り、計画調整課課長補佐を経て、本年4月より現職となっています。

◆これまでで思い出に残る仕事は

約10年前ですが、ごみ焼却場建設事務所当時に、土木技師であることから空冷溶融スラグの建設資材への利用検討を任せられました。市内部に相談する人も少なく、他の事例も少ないことから、比較的自由に検討させていただきました。下水道局で得た各地の污泥溶融スラグの利用状況等を参考に、ここでは海砂の減少・規制に着目し、各種業界団体とヒアリングを重ね、JIS化の動向、需給関係、材料承認へのメドをつけ、空冷スラグをアスファルト舗装材の細骨材として利用することを報告書としてまとめ提案しました。実現は後になりましたが、現在ではシナリオ通り、空冷スラグを全量有価物として売却し、業者サイドで砂に加工され、溶融スラグ入りアスファルトとして工事に利用されています。道路の舗装の中にキラキラ光るものを見つけると、このことが思い出されます。

◆今後の抱負をお聞かせください

本市は今年度から政令指定都市へと移行しました。さらに、社会経済情勢が大きく変化する中で、実体とやや乖離した全体計画を雨水・汚水合わせて見直しを行い、事業の効果と経営がほどよく両立するような計画づくりに取り組んでいきたいと考えています。



た なか まさゆき
田中 雅幸

福井市下水道部
下水管理課 主査

◆これまでの経歴は

平成7年度に福井市に採用され、下水道終末処理場の建設工事等の設計監理業務に6年間、下水道事業計画の策定に係る業務に8年間従事してきました。処理場建設に携わった時期に、施設建設と下水道全般のメカニズムを学んだことを糧として、現在、下水道事業計画の策定およびこれに係る種々の検討業務に取り組んでいます。

◆現在の担当業務は

本市は、平成15年度に汚水処理施設整備基本構想を策定して未普及解消を図る目処を立てた矢先、平成16年度に未曾有の福井豪雨に見舞われ、汚水整備から一転、浸水対策が急務となりました。また、本市には合流式下水道区域があり、汚濁負荷削減に向けた緊急改善対策と老朽化した施設の改築更新が必要となっていることから、浸水対策・合流改善の雨水貯留管等の対策計画を担当しており、さらに、下水道長寿命化計画の策定に向けた点検調査等の基本的なルール作りを進めています。

◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

国土交通省の「効率的な合流式下水道緊急改善計画策定の手引き」に準じ、本市の緊急合流改善計画を見直しするにあたり、下水道技術開発プロジェクト（SPIRIT21）を推進しておられた下水道新技術推進機構と共同研究をさせていただくこととなりました。

当研究においては、合流改善に関連する技術の活用を図ることは当然ながら、本市の実態についての詳細な分析・検証を実施していただき、コスト縮減を行いつつ所定の効果を実現できる改善対策計画を取りまとめることができました。

今後も、浸水対策等の拡充や長寿命化対策の実施に向けて、地域の実情への適用をはかりつつ、下水道の重点的な技術開発を推進させていただきたいと考えます。